

極短穂性専用品種による 安定的な高品質稲WCS生産の取り組み

県中農林事務所須賀川農業普及所

1 背景・ねらい

背景

食用米品種による稲WCS生産では、長雨等により収穫適期が遅れると、

- ⇒①消化されにくい粳の割合が高まる・・・栄養ロス
- ⇒②発酵不良等により品質が低下する・・・生産ロス

飼料価値が低下
利用者減少

ねらい

稲WCS専用品種を使用

特徴

収穫適期が長い
極短穂性



稲WCS専用品種へ作付転換し、高品質生産を行う

2 活動内容

連携

普及所

栽培指導(作物担当)
全体調整(畜産担当)

JA

資材提供

農研機構

研究成果情報

(1) 適性品種検討・実証

①栽培調査

- ・栽培の適性を確認するため、生産部会（耕種農家）に協力を依頼。
- ・夢あおば（飼料米・WCS兼用品種）を対照区に稲WCS専用品種「つきはやか（早生）」、「つきあやか（中生）」の実証ほを設置。
- ・協力農家に対して、こまめな巡回による栽培指導。
- ・出穂時期の確認と収穫適期の検討。

②品質調査

- ・嗜好性を確認するため、酪農家に協力を依頼。
- ・開封時に発酵品質の確認。
- ・飼料分析による栄養価の確認。

(2) 有用性の普及

①研修会の開催

- ・稲WCS専用品種への知見を深め、高品質化を図るため、講師を招き研修会を開催。
- ・専用品種の有用性を実感してもらうため、ロールを開封し、においや品質を確認。

②現地ほ場見学

- ・栽培適性を調査している実証ほを見学し、生育状況や出穂状況を確認。



図1 飼料採取

(3) 自家採種支援

- ・安定した作付推進を行うため、地域内に、自家採種ほ場を設置。
- ・栽培について情報提供と巡回指導。
- ・収量調査の実施。
- ・種籾品質の確認と発芽率の調査。



図2 生産者と打合せ

3 活動成果

(1) 適性品種の実証

- ・「つきはやか」、「つきあやか」は「夢あおば」に比べ2週間以上遅く黄熟期に達し、黄熟期以降の収穫でも品質が低下しにくく、**収穫期の分散に有効であることが確認**できた。
 - 「つきあやか」は出穂時期が不斉一であったため、稲こうじ病の防除時期について改めて調査する必要がある。
- ・当該地域においても**極短穂性という品種の特徴を有した生育を確認**することができた。
 - しかし草丈が非常に長く既存の収穫機械では負荷がかかり、作業効率の低下が認められた。

(2) 品質の向上

- ・収穫適期が分散された結果、収穫期間内に作業ができるようになり**不良ロールの発生が減少した。**
- ・利用者からの評価も高く、利用に意欲的だった。

表1 給与不可と判断されたロールの個数と割合

	R1	R2	R3	R4
生産ロール数(個)	6105	5034	4831	5111
不良ロール数(個)	107	50	3	27
不良割合(%)	1.75	0.99	0.06	0.53

(3) 自家採種支援

- ・発芽試験の結果、**種子として問題ない**ことが確認できた。
- ・地域内で安定した種子量が確保でき、次年度の作付への**不安が解消**された。



図3 つきはやか種子

4 今後の活動・方向性

○稲WCS専用品種の作付面積の拡大

- ・稲WCS専用品種への作付転換のモデルケースとしてとりまとめ、リーフレットなどを作成、配布する。

○意見交換会を開催

- ・JAと連携し、生産者と利用者の意見交換会を行う。生産者・利用者双方から出された意見を整理し、関係機関の担当者で優先すべき課題と改善策について検討を行い、来年度の生産計画の作成を支援する。